

緊急声明

経営改革を実現しよう！

理事長 石井 暎禧

経営の会計年度はすでに半期を過ぎた。今年、グループ各事業所の中で、病院の経営状況が悪い。

とりわけ、川崎幸病院は、新病院への移転新築をひかえ、計画を実現するため、今期施設単体で必ず黒字にしなければならない。救急処置室およびホールディングベッドを活用して、実質的なオーバーベッド状況を継続していかなければならない。資料を見ると、夜間帯救急における転送が相当数あるが、こういう患者も少なくとも翌朝まで入院・経過観察することが望ましく、患者自身にとっても良いことである。しかし、ホールディングベッドの状況をみると現在はあまり使われていない。これらのベッドを活用して、安易に救急を断ったり、転院させるのではなく、朝まで経過観察し、適切な入院治療へとつなげなくてはならない。このことは、川崎幸病院だけでなく、狭山病院にも当てはまる救急医療機関にとっての当然の運営であるが、川崎ではいまだ、これらベッドの活用に習熟して

いないように思われるのはどうしたことか。また ICU、HCU の運用についても人員等の問題をやりくりして、より多くの患者を受け入れ、加算件数と入院単価のアップもはかり入院収入予算達成を必ず実現する必要がある。ICU については看護師体制の点から事実上稼働しているのはこれまで4床であったが、看護部との協議の結果、プラス2床を稼働させて常時6床入院体制に持っていく事が決まった。そのための対応として、2階南病棟心臓病センターの看護師1名を当面 ICU にリリースとして出し、増やす2床は循環器専用ベッドとする。これにより、ICU 加算は1日約7万円なので、2床×1ヶ月、すなわち100%稼働ならば420万円の純益がプラスになる。また、ICU の施設基準(1床当16平米)の関係で ICU 加算がとれないものの、現在の ACU に看護師を3、4名シフトさせて、1日2万円の HCU 加算がとれるようにすれば、看護必要度・重症度の点から12床は加算がとれると考えられるので、こちらも

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》(1901)に由来しています。その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鳴らの群を尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

(編集部によるダイジェスト)

100%稼働ならば、1ヶ月720万円の純益がプラスになる。これらは現在考えられる具体的な収益確保の方法であり、その気になれば即実行が必要である。ICU6床常時加算確保の件は即日実行し、またACUのHCU加算確保についても直ちに着手し、一日も早く実現する必要がある。当然に、算定するものを算定するのは、

当たり前だが、多少の苦しい思いをしても加算を算定する姿勢がなくて経営が成り立つほど現状の急性期病院の経営環境は甘く無い。

これらの対策は、救急医療の整備を重点項目とする、国の施策にも一致する社会的な重要課題でもある。職員の皆さんの奮闘を期待する。

－ 救 急 車 同 乗 記 －

川崎幸病院 研修医 岩泉 清久

川崎幸病院では同院が目指す「断らない救急」実践のため、医師や看護師に救急発生の現場を経験してもらうという趣旨から川崎市消防局救急隊救急車への同乗研修を実施している。今回はこの研修に参加した一人である川崎幸病院研修医/岩泉清久医師のレポートを紹介する。（編集部）

今回は川崎市消防局川崎消防署にお世話になったのですが、救急隊の出動回数が非常に多い署だと聞いていたのかかなりの緊張感をもって臨みました。又、日々どのような疾患が来るのか全く解らない中でひたすら待機するというのは心身共にかなりのストレスがあることが身を持って良く分かりました。しかしながら、隊員の方々と見ると皆さん、特段緊張している様子もなく泰然自然としており、メンタル面のコントロールが非常に良く出来ているなという印象を受けました。これはどの業種にも言えることだとは思いますが、まずは、精神面をいかにフラットに保つかということが重要であると再認識させられた次第です。

次に実際の出動場面となり現場に向かう際には、途中の情報収集の的確さと無駄のない動きが素晴らしい。緊急状況でのインカムを要領よく出来るだけ多く、収集することにより、より多くのアウト

カムが引き出せるという理論を地で行く彼らに本当に感心しました。また出動・現場到着においての初動作業の迅速さも素晴らしい。つまるところ、職業的に必要な事柄をマニュアルライズして体に染み込ませることがこの素早さに繋がっているであろうと確信し、自分もこうありたいと強く思いました。

今回の経験を通じて最も痛感したことは、これまで救急隊の救急救命士と医師の間に確固たる情報交換のパイプが無かった事です。医師は搬送されてきた患者を診ることで一応の職責を果たすことが出来るが、救急隊はまず病院探しから仕事が始まるわけであり、このことが病院搬送までのタイムラグを生むことは覆しがたい事実です。従って、医療機関側がただ救急隊の搬送を待つだけでなく、お互いの知識と情報の共有を図れる場を設け、即応性を保証するパイプを作ることで、より多くの救急治療を必要とする患者さん

に必要な医療を迅速かつ適切に提供することが出来るということです。

最後に川崎消防署の方々とお話を頂いて感じたことは、医療機関の外にも、仕事に大いなるプライドを持ち、救急医療に真摯に取り組んでいる人達がいる

★トピックス①

さやま腎クリニックオープン間近！

さやま腎クリニックが10月1日（水）に竣工、いよいよ来月11月3日、オープンを迎える。同クリニックは地上4階建、2階、3階の人工透析室は最大ベッド数計106床（開設時ベッド数95床、うち個人用HDF装置4台・個人用透析装置1台・全自動型多人数透析装置90台）とこれまでのさやま総合クリニック内の透析ベッド数70床を大きく上回る。

新クリニックの院長に就任する小野田教高院長は同クリニックの開設にあたって次の3つの目標を掲げた。

- ①水の安全の保証：透析患者では血液が接触する透析液の安全（清浄化）はきわめて重要であり、最新の技術とこれまで培ったノウハウと駆使してこれを実現する。
- ②高齢透析患者さんの合併症に対するバックアップ：高齢透析患者の合併症に対して狭山病院、さやま総合クリニックとの密接な連携のもとにきめ細かい検査、治療を行う。入院治療が必要な場合は、狭山病院で全面的にバックアップする。
- ③患者自身による十分な治療の理解：透析治療では患者自身による生活・健康管理が重要であり、そのため、患者に日々の透析治療について分かりやすく説明し、治療に関して十分に理解してもらう。

ということでした。また皆様人間味溢れる方々で、私にとって非常に有意義で得がたい貴重な時間を与えていただきました。今回の貴重な経験は今後、医師としての私の歩みにとって大きな影響を与える出来事になったと実感しています。

さらに小野田院長は、“透析医療においては各職種が専門性を発揮しつつ、同時に全員が一体となったチーム医療を推進することが特に重要。このことを職員一同が心に銘じて患者治療にあたりたい”と語る。

この新施設オープンによって、狭山病院で年々増加している透析導入患者をより確実に受け入れることができるものと期待されている。なお、オープンに先立って10月26日（日）には内覧会とともにオープニング記念講演会が開催される（13:30～ 会場：狭山病院管理棟2階会議室）。演者、講演内容は次のとおり。

- ①13:30-14:30 石田真理先生（北彩都病院副院長）
「北彩都病院 氷点下の町の熱い取り組み」
～透析医療はチーム医療、愛ある医療を目指して～
- ②14:30-15:30 平田純生先生
（熊本大学薬学部臨床薬理学分野教授）
「透析患者に対する薬剤の使い方」



〈11月3日オープンを控える「さやま腎クリニック」〉

★トピックス②

川崎幸クリニック開院10周年記念事業

川崎幸クリニックが川崎幸病院から分離、開院したのは今から10年前の1998年9月14日。この開院10周年を記念する事業が9月20日(土)、川崎日航ホテルで開催されました。

会場に集まった300名を超す地域住民に対し、杉山孝博院長は冒頭のあいさつの中で“地域の皆様に信頼していただけるよう、地域医療に貢献できるよう、懸命に取り組んできました。今、こうして10周年を迎えられるのも地域の皆様のおかげです”と謝辞を述べました。

続いて、映画監督大島渚氏夫人で女優の小山明子さんによる講演が行われ、小山さんの“命をいただいていることに日々感謝したい”というメッセージに多くの参加者が深く感銘を受けた様子でした。第二部のアトラクションでは「老健わかば」の妹尾音楽療法士ほかによるハンドベル演奏、クリニックの九島副院長や石毛医師

ほかで編成される石心会弦楽合奏団の演奏が行われ、会場は和やかな雰囲気になりました。来場した地域住民の一人は“小山さんの講演は共感することが多かった。またドクターや職員の皆さんの音楽演奏を聴いて、川崎幸クリニックにますます親しみが湧いてきました”と語っていました。



〈“命をいただいていることに日々感謝したい”
と語る小山明子さん〉

★トピックス③

さいわい鹿島田クリニック女性外来スタート ～スタッフ全員が女性、受診者に好評～

さいわい鹿島田クリニックでは9月29日(月)、新たに女性外来を開設、診療をスタートさせた。女性疾患を専門に診断するこの外来では、スタッフは医師をはじめ全員が女性、院内には女性患者の

デリケートな心理に配慮した他科とは別の専用の待合室などが設けられているほか、診療も月曜、水曜が午前10時30分から午後7時00分、火曜、金曜が午前9時00分から午後4時30分、土曜日が

午前9時00分から午前11時30分と、在宅の女性だけでなく、仕事を持つ女性にも受診可能な設定となっている。開設当初から約1週間の1日当たりの平均患者数は10名弱だが、日を追ってその数が増えてきており、今後、この外来が地域住民に広く周知されるに伴って、さらに増加するものと見込まれている。同クリニックの織茂事務長は“計画と準備に1年余を要したが、ようやく女性に安心して受診していただける医療体制と空間をつくることができた。今後は地域に対してより積極的にこの女性外来をアピールするとともに、診療メニューの一層の充実、助産師による母乳相談の開設、乳腺外来との相互連携等を進め、さらに多くの

女性に受診していただけるように努力したい。”と抱負を述べている。



〈スタッフ全員が女性のさいわい鹿島田クリニック
「女性外来」右手から 田中看護師、百瀬医師、
山田看護師、清水看護師〉

★トピックス④

狭山病院、来年2月中央棟をオープン

～8月26日に地鎮祭を執り行う～

狭山病院では2009年2月、病院と管理棟の中間地点に、敷地面積370.13㎡、地上3階建の新施設、中央棟をオープンさせる。この中央棟の1Fには無菌製剤室・化療調剤室、2Fには生化学検査室・細菌検査室、薬剤管理指導室、感染管理室、3Fには診療情報管理室と図書室、福利厚生として職員休憩室が設置される予定。8月26日には工事着工に先立ち、地鎮祭が執り行われ、工事の安全が祈願された。狭山病院ではDPC・機能評価再審に向けて、この中央棟建設とあわせて医局スペースを拡大、現在の医師70名体制から90名体制へと整備するとともに、研修医室、カンファレンスルーム、食堂も拡充する。



〈狭山病院中央棟地鎮祭
辻田本部事務局長による鍬入れ〉

《趣味探訪》

『歌うこと、大事にしたいのはアンサンブル』

福祉用具レンタルさいわい 寺川 浩司

はじめまして。「福祉用具レンタルさいわい」の寺川と申します。「レンタルさいわい」は石心会グループの在宅部門に所属する福祉用具の部署がで、毎日ベッドや車いすを持って川崎市内をあちこち回りながら頑張っています。この機にレンタルさいわいの名前を覚えていただけると幸いです。

それでは、私の趣味である音楽と活動についてご紹介させていただきたいと思います。音楽には“聴く”“歌う”“演奏する”“創る”など色々な楽しみ方がありますが、私の場合は、“聴く”から始まり、“歌う”に目覚め、やがて人前で“演奏する”ことに喜びを覚え、そして今、自分たちのメッセージを込めた歌を“創る”、そしてそれを一人でも多くの皆さんに届けることに喜びを感じています。

私の音楽歴を振ると、生家はごく普通のご家庭でしたが、幼い頃からいつもいろいろな音楽がかかっていたことを憶えています。父はロカビリー世代で平尾昌晃が大好きだったそうですから、きっと私には物心つく前からそのリズムとメロディーが入り込んでいたのかもしれません。

小学4年生の頃当時私の住んでいた市内には、小学生の有志で結成された少年合唱団がありました。それは、演奏旅行に良く行くような精力的な活動をしている団で、私はどうしてもそこに入りたくて両親に泣いて頼んだ記憶があります。そこから私の“歌う”音楽が始まりました。

中学校時代は野球部と合唱部を掛け持ちしながらも、ますます歌うことの楽しさに目覚めていきました。そして当時、BOφWYという今でも伝説に残るロックバンドを知り、バンドで自分たちの演奏をしたい、という思いが生まれたのは高校に入学したころでした。同じくロック好きの仲間たちとバンドを組み、母校だけでなく他校や様々なイベントにもバンドとして参加するようになりました。このバンドでは当初、好きなバンドの音楽をコピーして演奏していましたが、大学に入ってから自分達の言葉で表現したいという思いから、オリジナル曲を演奏し、その頃から都内のライブハウスなどにも出演するようになりました。

以来20年、仕事や家庭の事情などでメンバーは変わりながらも、バンドとしての演奏活動は途切れることなく続け、今でも定期的にライブハウスなどで演奏しています。オリジナル曲は20曲ほどありますが、その多くは命の大切さ、友情の尊さ、目標を持って歩いていくことの大事さを歌っています。

スポーツをやっている方も感じるのだと思いますが、歌も同様で、怠けるとすぐに結果に出てしまいます。歌い続けてやっと出るようになった声や高い音階が、少し声を出さ



ないだけですぐに出なくなってしまう、もとに戻すまでには相当の時間がかかります。少しずつでも継続していくことの大切さを、歌うことを通じて身を持って体感することができました。また音楽をやっていると、“アンサンブル”という言葉をよく耳にします。全体との調和を意味するもので、自分だけが出すぎてもいけない。引っ込みすぎてもいけない。時には引っ張り、また時には従う。常に周りを意識しながら自分の立ち位置や役割を見極め、携わる者全員で一つのものを作り出していく。音楽に限らず、きっと色々な場面に通じることなんだろうな、なんて思ったりもします。この感覚は仕事でも活かされているかもしれません。

皆さんもぜひ私たちと一緒に音楽を創りませんか。曲にしたい詩などをお持ちの方がいらっしゃればお声掛けください。

《読書のすすめ》

E. R. バローズ 著
創元SF文庫 合本版
税込：1,785円

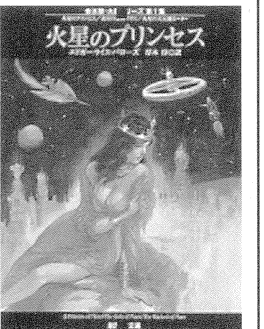
時を経て今なお、知的冒険心を刺激するSF小説

「火星のプリンセス-合本版・火星シリーズ」第1集

さやま総合クリニック 院長 河村 正敏

読書を本格的に始めたのは高校からである。楽しみを長く取っておきたいという貧乏性のせい、短編小説はあまり好きではなく、長編小説特にシリーズものが好きである。最初に読んだシリーズはE. R. バローズの「火星シリーズ」であった。E. R. バローズという作家はこの「火星シリーズ」のほかにも「金星シリーズ」「ムーンシリーズ」といった太陽系冒険物ともいべきSF小説を書いているが、私が少年であった当時は地球以外の太陽系の惑星などにも知的生物が存在するのではないかと興味とも期待とも、あるいはある種の恐れともいえる雰囲気が生きている時代でもあり、E. R. バローズ作品は私ばかりでなく当時の多くの少年達に、宇宙や科学への興味を呼び起こし、同時に地球上で起こりえる事象の次元をはるかに超えて自在に展開される物語は、少年特有の知的冒険希求心を大いに刺激し、また満足させたものであった。そしてもちろん、主人公が美しい王女を救い出すという、今どき

の少年達には無邪気すぎるかもしれない英雄物語的ストーリーも当時の我々にとってみれば胸を高鳴らせるものであったことはいうまでもない。このシリーズを読みながら、夜空に浮かぶ赤い火星をみて心を躍らせる日々を送っていたのを思い出す。ちなみにE. R. バローズはあの「ターザンシリーズ」の作者でもあって、未知なるものや原始なるものへの憧れ、そして主人公が様々な苦難や妨害を乗り越えて、かよわき乙女を救出するという物語仕立てに、彼が書くファンタジーの共通性が感じられて面白い。今改めて手に取って読み返してみると、当時覚えた興奮が蘇る。大人の中に残る少年の心がそうさせるのか、男はいつまでも少年なのか、一読のうえ、みなさんの読後の感想をお聞きたい。



【編集部より】E. R. バローズ (Edgar Rice Burroughs 1875年生-1950年没)の火星シリーズは地球から体外離脱して火星に瞬間移動した主人公(各巻ごとに新たな主人公が登場する)が火星の知的怪獣に奪われた美女(これもまた各巻ごとに次々と新しい美女が現れる)を勇気と知略を持って救い出すという物語で全11巻。物語の随所に「科学」的説明や解説が盛り込まれ、異惑星で繰り広げられる物語に迫真性を添える。また、武部本一郎による美麗なカバー絵、口絵、挿絵も当時の読者を大いに魅了した。シリーズは過去にいったん絶版となったが根強い人気があることから、創元SF文庫から合本版として再発刊されている。

ミュージック・サロン



■川崎幸病院中原分院

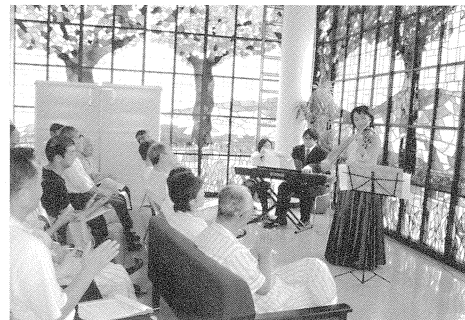
第2回うるおいコンサート♪

中原分院で2回目となるこの「うるおいコンサート」。今回は洗足学園音楽大学『堀越ゼミ』の堀越先生とゼミの生徒さんによるヴァイオリン・フルート・トランペット・ピアノのソロ演奏です。皆さん良くご存じの映画音楽やヒットソングが様々な楽器で紡ぎだされ、聴衆の皆さんも手拍子で参加されていました。

■日 時：7月19日(土)

■会 場：1階ロビー 聴衆：50名

■曲 目：ジッパディー・ドゥーダ、ムーン・リバー、
美女と野獣、川の流れるように ほか



〈会場の皆さんも手拍子で参加〉

■さやま総合クリニック

第16回ヘルシーコンサート♪

今回は昭和音楽大学准教授でもあるピアニスト、川染雅嗣氏によるピアノリサイタルです。川染氏は東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業、ポーランド国立ワルシャワ音楽院(現ショパン音楽院)に留学の後、現在国内外で活発に演奏活動を行っています。当日、演奏された曲目はいずれも代表的なピアノ曲ばかり、聴衆は旋律の一つ一つに深く酔いしました。

■日 時：7月5日(土)

■会 場：3階ピアノホール 聴衆：70名

■曲 目：ベートーベン：ピアノソナタ ハ短調「悲愴」、チャイコフスキー：瞑想曲 作品72-4、ショパン：ピアノソナタ第3番 ロ短調 作品58 他

☆ヘルシーコンサートのいわれ☆

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師(現狭山病院長)が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニストユンディ・リが練習用に愛用したものです。

★トピックス③

【川崎幸病院】

- 7月10日 新入職員歓迎ボーリング大会
- 7月13日 臨床研修病院合同セミナーin東京ビッグサイト(病院147施設/学生1,536名参加)
- 7月26日 納涼祭
- 7月26日～9月15日 アンギオ装置入れ替え工事(9月16日稼働)
- 8月13日 川崎市救急隊との意見交換会
- 9月3日 医療監視
- 9月12日 ホームページ・リニューアル
- 9月14日 防災訓練

●出張講演(公開講座)

- ・9月6日 桜本二丁目町内会主催『最新のがんトピックスについて』
(講師：副院長・消化器病センター長/関川浩司) 桜本福祉会館 参加者31名
- ・9月13日 大島五丁目町内会主催『生活習慣病と心臓疾患について』
(講師：副院長・心臓病センター長/塚本喜昭) 大島五丁目町内会館 参加者46名

●病病連携情報交換会

- ・7月15日 『新地域医療計画が求める機能分化と連携』
(講師：院長/石井暎禧) 川崎市産業振興会館 参加者：53名

●イブニングセミナー(登録医向け勉強会)

- ・8月27日 『幸地区における高齢化動向と特発性正常圧水頭症について』
(講師：統括副院長/岩井良成) 参加19名

●定例救急隊勉強会(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)

- ・7月22,23日 『救急救命士との情報交換』(講師：EMT科(救急救命士)大橋聖子) 参加者計18名

●院内勉強会/講演会

- ・7月4日 薬剤科主催『デュロテップMTパッチの説明(製剤の特長について)』
- ・7月9日 検査科主催『心電図』(講師：循環器科/知念久美子)
- ・8月19日 大動脈センター主催『A Brief Story of Thailand』
(講師：タイ国Vajira Hospital〈大動脈センター研修来日〉: Dr.Suksan Kanoksin,MD)

【川崎幸病院中原分院】

●7月19日 うるおいコンサート

●公開講座

- ・7月5日 『そこまで出来る内視鏡』(講師：消化器内科医長/大前芳男) 参加者57名
- ・8月9日 『気づかぬうちに忍び寄る前立腺がん』(講師：泌尿器科部長/林哲夫) 参加者50名

【狭山病院】

●7月26日 納涼祭

●8月1日 狭山病院敷地内全面禁煙開始

●8月5日 看護師復職支援セミナー(狭山病院にて) 参加者2名

●8月26日 中央棟地鎮祭

●院内勉強会

- ・7月8日 『エビデンスに基づく病院感染対策の考え方』 参加者85名
- ・7月30日 『タバコの害と禁煙補助薬/当院における禁煙支援プログラム』 参加者23名
- ・8月4日 『細菌培養の検体採取方法と適切な採取容器他』 参加者59名
- ・9月16日 『医療安全の基礎』 参加者60名

●地域医療連携・公開カンファレンス

- ・7月11日 『開業医安心して戻れる心臓手術を目指し』
(講師：心臓血管外科副部長/垣 伸明) 参加者105名
- ・7月23日 『最近のPCI治療について』
(講師：循環器科部長代行/長谷川耕太郎) 参加者126名
- ・8月22日 『胃癌ガイドラインの解説と新しい知見』(講師：外科部長/堤 譲二) 参加者63名
- ・9月5日 『災害看護～もしもの時の対応～/認定看護師のつくりかた』 参加者194名
(講師：埼玉医科大学国際医療センター・日本看護師協会救急看護認定看護師/吉野暁子)
- ・9月12日 『第5回病病連携懇談会』 参加者68名

【川崎幸クリニック】

- 9月20日 開院10周年記念事業(川崎日航ホテルにて、小山明子氏講演ほか) 参加321名
- 糖尿病公開講座 講師:内科医師/安島美保、管理栄養士、理学療法士、看護師
 - ・ 8月2日 参加14名、10月1日 参加11名
- 気功教室 講師:臨床心理士/稲富正治
 - ・ 7月23日 参加4名 ・ 8月26日 参加5名 ・ 9月30日 参加5名
- 心理相談室公開講座 講師:臨床心理士/成田亜紀・小川佳那
 - ・ 7月28日 『リラックス健康法』 参加者7名
 - ・ 8月25日 『周りも知っておきたい うつの治療法』 参加者2名
 - ・ 9月22日 『不登校を考えよう』 参加者1名

【さやま総合クリニック】

- 7月5日 ヘルシーコンサート
- 健康教室 参加者各回15名
 - ・ 7月3日 『代用甘味料を使って夏のデザートに挑戦!』(講師:管理栄養士/蒲池裕子) 参加者15名
 - ・ 9月4日 『外食と中食のポイント』(講師:管理栄養士/蒲池裕子) 参加者15名
 - ・ 9月27日 『採血結果値の見方について』(講師:検査技師/矢部恭代) 参加者20名

【アルファメディック・クリニック】

- 9月11~12日 第49会日本人間ドック学会学術大会(徳島市) 参加者4名 2演題発表

【川崎健診クリニック】

- 9月11~12日 第49会日本人間ドック学会学術大会(徳島市) 参加者4名

【昭島腎クリニック】

- 9月1日 医療法人社団新緑会に移籍
- 院内勉強会
 - ・ 8月28日 『フットケアー……基礎疾患別の特徴と治療上の注意』 参加者24名
 - ・ 9月18日 『無酢酸重曹透析液カーボスターについて』 参加者28名

【新緑会脳神経外科】

- 院内勉強会
 - ・ 9月9日 講演①『Four Square Step Testの 検者間信頼性 ~臨床的有用性についての第一報~』
(講師:理学療法士/伊藤健志)
 - 講演②『側頭葉を狙った1HMR-spectroscopyにおけるコイル半かぶり法の有用性』
(講師:診療放射線技師/菊池千絵)
 - 講演③『インシデント報告と対策について』(院長/佐藤健吾) 参加者42名

【立川新緑クリニック】

- 院内勉強会 薬局主催
 - ・ 5月13日 『脳梗塞の薬剤治療』 ・ 6月10日 『生活習慣病の最新』
 - ・ 7月18日 『栄養管理について』 ・ 8月5,9日 『手洗いの実践』
 - ・ 8月12日 『造影剤の最新』

【立川介護老人保健施設わかば】

- 7月26日 納涼祭